

農村生活体験民泊受入実績数

H21	189人 352人泊	H25	3,204人 4,318人泊
H22	1,162人 1,348人泊	H26	3,797人 4,909人泊
H23	2,394人 3,598人泊	H27	約3,400人 約4,500人泊
H24	2,949人 4,077人泊		

地域が元気になる！

「三方よし！」

近江日野の農村生活体験

「民泊受け入れ家庭を募集しています」

町では、日野町の自然や歴史文化、農林業など、地域の特徴を生かした民泊を伴う「農村生活体験」を推進しています。農村生活体験は平成21年度から受け入れを始め、修学旅行生を中心に年々増加しています。近年は、中国、台湾をはじめマレーシアなど海外からの受け入れも増加しています。今年度も、1年を通してたくさんの方の修学旅行生が日野町を訪れます。ぜひ、あなたの家庭でも心温まる「民泊」を始めませんか！また、皆さんのご近所で見かけた時には気軽に声かけをお願いします。

農村生活体験が必要とされる理由

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、「コミュニケーションをとることが苦手な子どもたちが増えています。かつては日常の暮らしの中にあつた様々な生活や人との関わりを通して子どもたちは人間関係をつくってききました。さて、今はどうでしょうか？

日野町が取り組む農村生活体験では、様々な「体験」を通して心と心の「交流」を図ることを目的としており、「こうし

た形の教育旅行を求める学校は全国的にも増加し、「観光施設を見て回る旅行」から「ありのままの農村生活を体験する旅行」へとそのニーズは変化しています。



民泊で地域振興を！

民泊を伴う農業生活体験は地産地消を心がけることにより、農村生活体験、民泊、食事と、ほぼ全額が地域で使われ、経済波及効果が高いと言われています。

日野町では、平成21年度から農村生活体験の受け入れをはじめ、現在町内に150軒近くの民泊受入家庭があります。

また、地域外から子どもたちを受け入れることによって、日常の暮らしの豊かさを再確認していただくことができ、生きがいや自分たちが暮らす地域への誇りが生まれ、さらに地域「コミュニティ」も良くなり、地域の元気づくりにつながります。

平成26年度は31団体3,600名を越える子ども達を受け入れ、その金額は約5,000万円にもなります。



民泊の主な流れ

1泊2日の例

③それぞれの農村生活体験



②各家庭へ出発



①入村式



④一緒に食事づくり体験



⑤団らんのひと時



“感動体験” 民泊始めませんか

現在、約150軒の受け入れ家庭の皆さんと一緒に民泊に取り組んでいますが、まだまだ受け入れ家庭は不足しています。ぜひ、あなたの家庭でも心温まる農村生活体験民泊をはじめませんか。興味のある方はお気軽にご相談ください。

⑦お見送り



⑥離村式



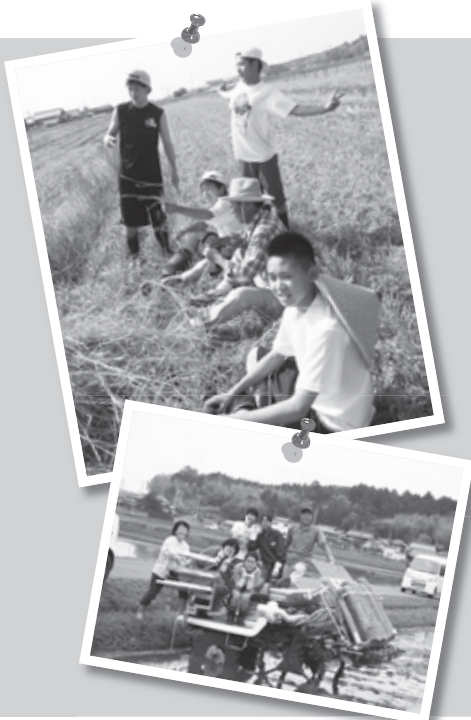
民泊ってどんなことなの？

日野町が推進する民泊を伴う農村生活体験は、体験を通してお互いの『心の交流』が目的であるため、民宿などのようにお客様扱いはせず、家族の一員として迎えます。子ども達にほんものの作業を手伝わせ、たくさん話をしてあげてください。

食事は地産地消にこだわり、煮物や和え物、酢の物、天ぷらなどのメニューと一緒に調理してください。普段どおりの食事が子ども達にとっては『ごちそう』です。

豪華な料理を作り、準備、片付けをしてあげるなど、至れり尽くせりの宿泊体験は必要ありません。子ども達を楽しませよう、喜ばそう、いい思い出をつくってもらおうと考える必要もありません。普段どおりの暮らしの中で子ども達と家族団らんを一緒に過ごし、たくさん交流をすることが何よりの『おもてなし』になります。

体験では農作物の植え付けや収穫、草刈りや苗箱洗いや農作業の準備や片付け、里山散歩、竹細工(竹トンボやお箸づくり)、清掃活動など地域行事への参加、郷土料理づくり、星空観察、ホタル探しなどが行われています。



◆問い合わせ先 商工観光課 商工観光担当 または 三方よし！近江日野田舎体験推進協議会 ☎6562